

令和4年10月31日  
(2022年)

保護者の皆様

吹田市立山田中学校  
校長 小早川 靖樹

#### 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度、4月に3年生を対象として「令和4年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は中学校の最終学年のみを対象とした調査であり、今年度は、国語・数学・理科の3教科で実施されました。調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった3年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善を図ってまいります。

各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の参考にしていただきますようお願い申し上げます。

## 1. 教科に関する調査結果の分析

### 【 国 語 】

#### 《概要》

ほとんどの領域で、平均正答率が全国値を上回っている。「情報の扱い方に関する事項」および「書くこと」の領域「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことについては、全国値を下回り、課題がある。

#### 《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

##### 言葉の特徴や使い方に関する事項

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

##### 情報の扱い方に関する事項

- ・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことについて、情報の扱い方に課題がある。

##### 我が国の言語文化に関する事項

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

##### 話すこと・聞くこと

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

##### 書くこと

- ・「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことについて、情報の扱い方に課題がある。

##### 読むこと

- ・全ての設問で、全国値を上回っている。

#### 《国語科における成果と今後の改善点について》

今回の調査結果から、生徒の日常の学習成果と努力を確認することができる。「主体的・対話的な学び」を取り入れ、今後もグループワーク等による「話し合い活動」や「自分の考えを、伝え方を工夫しながら発表する取り組み」を継続して進めていく必要がある。これまでの授業や発表等をさらに発展させて、生徒の力となるよう努めていきたい。

「自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く」ことには課題がみられるため、上記のような取り組みを進めて定着に努めていきたい。

## 【 数 学 】

### 《概要》

全ての領域で、平均正答率が全国値を上回っている。「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことについては、全国値とほぼ同じである。

### 《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 数と式

- ・全ての設問で、全国値を上回っている。

#### 図形

- ・全ての設問で、全国値を上回っている。

#### 関数

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

#### データの活用

- ・ほとんどの設問で、全国値を上回っている。「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことについては、全国値とほぼ同じである。

### 《数学科における成果と今後の改善点について》

今回の調査結果から、習熟度別指導を含む、少人数指導等の成果がみられ、正答率から学習の成果が現れている。しかし、「資料の活用」についてはやや課題がある。特に、「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」ことについては、全国値とほぼ同じであり、多くの生徒がつまずきやすい部分であることがわかる。また、全体的に正答率は全国値を上回っているが、無解答率が全国値よりも高い設問もあり、課題である。加えて、記述式についても、正答率が半数に満たない設問が多く、課題である。今後も少人数指導の特性をいかしつつ、授業の中で課題に対し自らの考えを言語化するなどの場面を設定する等の機会を増やしていく必要がある。

## 【理科】

### 《概要》

全ての領域で、平均正答率が全国値を上回っている。全国値とほぼ同じもしくは下回る設問がいくつかあり、「知識や技能を活用して、様々な要素やデータに関連付けて分析し解析する」ことについて課題がある。

### 《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

#### 「エネルギー」を柱とする領域

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

#### 「粒子」を柱とする領域

- ・全ての設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。

#### 「生命」を柱とする領域

- ・ほとんどの設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。「節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈できるかどうかをみる」ことについては、全国値とほぼ同じである。

#### 「地球」を柱とする領域

- ・ほとんどの設問で、全国値を上回るもしくはやや上回っている。「飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善できるかどうかをみる」ことについては全国値とほぼ同じ、「継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図に関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうかをみる」ことについては全国値を下回り、課題である。

### 《理科における成果と今後の改善点について》

どの領域でも全国値を上回ることができていたことから、1・2年生の内容は理解できていると思われるが、思考・判断・表現の観点では全国値を下回るものも見られた。今後、具体例を示し考察する学習活動を繰り返し行うことや、他者の考察の根拠としているものや方法が妥当かを検討する学習場面の設定など、知識及び技能を活用して、発展的・総合的に関連付けて、分析し、解釈する学習を実施していく必要がある。

## 2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

### 【 視点1 】 規則正しい生活と計画的な家庭学習について

#### < 調査結果 >

- ・「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」については、全国値をやや上回っている。
- ・「朝食を毎日食べていますか」については、全国値とほぼ変わらない。
- ・「家では自分で計画を立てて勉強していますか」については、全国値を上回っている。
- ・「学校の授業以外に、平日1時間以上、休日2時間以上勉強している」については、全国値を上回っている。

### 【 視点2 】 学習方法の工夫と学習に対する姿勢について

#### < 調査結果 >

- ・「1・2年生のときに受けた授業で、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動」については、全国値を上回っている。
- ・「1・2年生のときに受けた授業で、自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動」については、全国値を上回っている。
- ・「1・2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」ことについては、全国値を上回っている。
- ・「1・2年生のときに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む」ことについては、全国値をやや上回っている。

### 【 視点3 】 ICT機器の活用について

#### < 調査結果 >

- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」については、全国値を下回っている。
- ・「普段、1日あたり1時間以上、スマートフォンやPCなどのICT機器を勉強のために使っている」については、全国値を上回っている。
- ・「1・2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を日常的に使用している」については、全国値を下回っている。
- ・「授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を日常的に使用している」については、全国値を下回っている。
- ・「学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を日常的に使用している」については、全国値を下回っている。
- ・「自分の考えをまとめ、発表する場面でPC・タブレットなどのICT機器を日常的に使用している」については、全国値を上回っている。

### 【 視点4 】 他者との関わりについて

#### < 調査結果 >

- ・「人が困っているときは、進んで助けている」ことについては、全国値を下回っている。
- ・「人の役に立つ人間になりたいと思う」ことについては、全国値をやや下回っている。
- ・「友達と協力するのは楽しいと思うか」については、全国値とほぼ変わらない。

- ・「学級生活をよりよくするために学級全体で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」については、全国値とほぼ変わらない。
- ・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいるか」については、全国値をやや下回っている。

今年度の本校学校経営方針は、以下のとおりです。

全教職員の協働体制のもと、めざす学校像の実現に向け、すべての教育活動において、子どもたちに付けたい力を明確にして取組みを進め、「元気が出る学校」づくりをめざす。

- 1 思考力、判断力、表現力を伸ばす授業の充実
- 2 生徒を深く理解し、一人ひとりが生かされる教育活動の展開
- 3 基本的な生活習慣を確立し、自主的に動く自立した生徒の育成
- 4 とともに助け合い、協力してやりぬく大切さを実感できる集団の育成
- 5 教職員が互いに尊重し合い、ともに育つ職場の構築
- 6 保護者・地域からの信頼される学校づくり

【視点1】より、規則正しい生活を過ごし、自分で計画を立ててしっかりと家庭学習に取り組むことができているとされています。昨年度と同様、家庭での落ち着いた生活が、落ち着いた学校生活にもつながっていると考えられます。

【視点2】より、本校では授業において「学んだことを生かして自分の考えをまとめる」「自分の思いや考えをもとに作品・作文などの新しいものを創り出す」といった工夫が見られます。これらの工夫により、生徒に「うまく伝わるよう資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表する」「課題解決に向けて自ら考え、自ら取り組む」といった意欲・態度がはぐくまれていると考えられます。

一方、【視点3】より、スマートフォン・PC・タブレットなどのICT機器を使っているが勉強の役に立つと思っている割合は全国と比較して低いことや、授業中において「自分の考えをまとめ、発表する場面」は全国と比較して高いが、「自分で調べる場面」「学級の生徒と意見を交換する場面」は低くなっています。昨年度と比べてICTの活用頻度は高くなっていますが、今後、思考を深める過程（場面）を中心としてさらに積極的に活用し、資質・能力をはぐくむ授業づくりのため、一層の授業研究ならびに実践を図っていきます。

【視点4】より、「友達と協力するのは楽しい」「互いの意見のよさを生かして解決方法を決める」ことは全国と比較してほぼ変わらないが、「人が困っているときは進んで助ける」「人の役に立つ人間になりたいと思う」ことは低くなっています。今後、授業をはじめ、学級活動や学校行事等の様々な場面をとおして、「ともに助け合い、協力してやりぬく大切さを実感できる集団の育成」を図るべく、教職員一丸となって取り組んでいきます。